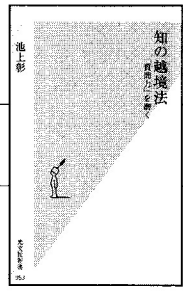
BOOK
ブック

池上氏は異動や転身を、現状を脱し新天地に飛び込むという意味で「越境」であり、積極的な行為だという。他の専門分野にまたがると、領空侵犯と批判されがちなため、他の専門分野を串刺しにできない人が多い。さらに、歳をとると越境の機会が減る。氏は、無理にでも越境の機会を作る必要があるという。異なる文化と接し、異質な存在を取り込むことによって多様性を生み出せるという。「ゆとり教育」についても、現在活躍中の若者たちについて、カリキュラムに余裕が生まれ、多様な活動ができるようになった成果として評価し、「円周率を3にした」などの批判の不当性を指摘する。

「質問力」については、素朴な疑問は貴重な情報源、異分野の知恵を借りる、想定外の問いで本音を引き出すなどと、その効果と方法を説く。池上氏の転機は、「週刊こども ニュース」キャスターへの異動にあった。「建前の答え」に終始する相手をリスペクトしつつも「子どもにわかるように」と注文をつけ、「ぬけぬけとした質問」によって、相手の深い回答を得るようにした。評者は、この「質問力」について、インタビューによる暗黙知可視化手法との共通点を多く見出す。池上氏の言う「一見役に立たないと思うこと」でも疑問を持つことで知識が拡がる。これはすぐに陳腐化する「すぐに役立つもの」と対照的だ。そして、狙いは定めておくものの、そこで発生する偶然の果実は取りこぼさないという「ゆるやかな演繹法」が、インタビューのポイントになる。教育も、このような既定の解答のないことを追求する「質問力」を生徒に身につけさせることが重要といえよう。

（前聖徳大学教授・西村美東士）



知の越境法
「質問力」を磨く

池上 彰 著
864円　光文社新書
☎03-5395-8102